

特別支援教育研究論文集

—令和2年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

自閉症・情緒障害特別支援学級及び通級による
指導における自立活動の充実

—自立活動の指導の現状と課題を把握するための全国調査を通して—

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会

研究代表者 山中ともえ

(東京都調布市立飛田給小学校)

会長 川崎 勝久

(東京都新宿区立花園小学校)

令和3年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

要旨

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会では、全国の特別支援学級・通級指導教室設置学校の課題を把握するとともに、今後の特別支援教育の推進や充実、国への提言等を検討するための基礎データとする全国調査を毎年度実施している。今年度は、知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級及び通級指導教室を調査対象とし、自立活動の指導に係る状況について、平成28年度の調査結果と比較しながら現状と課題について分析を行った。各地区理事を通して約10%の学校を抽出し、1,647校から回答を得た。

特別支援学級での自立活動の週当たりの時間は、「週2時間」と回答した割合が最も高く、平成28年度調査結果との大きな差はなかった。特別支援学級の教育課程で、重点目標として選択した割合が最も高かった自立活動の区分は「コミュニケーション」及び「人間関係の形成」、選定した割合が最も高かった項目は「他者との関わりの基礎」及び「コミュニケーションの基礎的能力」であった。平成28年度調査と比較して、増加幅が最も大きい区分は「コミュニケーション」、減少幅が最も大きい区分は「心理的な安定」であった。

特別支援学級担任について、「自立活動の指導に関する専門性を有する」と肯定的に回答した割合が、知的障害特別支援学級の小学校で55.0%、中学校で55.0%、自閉症・情緒障害特別支援学級の小学校で61.6%、中学校で52.2%と高く、平成28年度調査と比較しても増加していた。校長による担任への「自立活動の指導に関する専門性が向上するような指導・助言」を行っている割合も、平成28年度調査と比較して増加しており、専門性を有する教員増加の一因と考えられる。また、特別支援学級担任が、自立活動の6区分27項目の内容について「理解している」「やや理解している」と肯定的に回答した割合も高く、その主な理由は、①研修受講等による自己研鑽の状況、②指導計画等の作成状況、③指導状況、④児童生徒の変容、⑤本人のこれまでの経験・実績等であった。

特別支援学級において、自立活動の指導が「重要である」「やや重要である」と肯定的に回答した割合と比較すると、実際の自立活動の指導が「充実している」「やや充実している」と肯定的に回答した割合が低いことが分かった。自立活動の指導が重要であることは理解しているものの、指導内容が充実しているとはいえない状況にあることが推察される。

通級による指導では、「個別の指導計画を作成の際、『特別支援学校学習指導要領自立活動編』の内容を参考にしている」と肯定的に回答した割合と比較すると、「指導内容は自立活動を参考にした内容になっている」と肯定的に回答した割合が低いことが分かった。今回の調査では、自立活動を充実させるために工夫している具体例について、自由記述により多くの回答を得た。

特別支援教育において、自立活動の重要性は認識され、様々な課題とそれに対する対応や工夫が進んできていることが今回の調査で明らかとなった。今後も、特別支援学級や通級による指導における専門性の一つとなる自立活動のさらなる充実を期待したい。

キーワード：自立活動 コミュニケーション 人間関係の形成 心理的な安定

知的障害特別支援学級 自閉症・情緒障害特別支援学級 通級による指導